

議会改革推進特別委員会会議要旨

開催日時：令和3年2月10日（水） 午前9時30分～

開催場所：第1委員会室

出席者：山本 剛委員長、長谷川 崇朗副委員長、荒川 泰宏委員、
岩井 智恵子委員、津村 俊二委員、東郷 正明委員、橋 俊明委員

オブザーバー：東郷 克己議長

委員外議員： 田中 陽介副議長

協議事項前 令和2年3月27日議会改革推進特別委員会振り返り

(1) 議会改革推進特別委員会の今後の取り組みについて

意見の要旨

・「市民の声を聴く」「市民の声を活かす」ための取り組みを検討していくことを委員間で確認した。手段として広聴会や出前懇談会等があり、来年度には何か実施できるようなことを目指して、今後進めていく。

(2) 議長からの諮問について（会議スケジュール等について）

○議案質疑における一問一答方式の採用について

意見の要旨

・市議会として委員会付託しているという意味合いをどうとらえるのか。
・現状の問題点としては、一括方式での議案質疑で質問項目が多い場合、聞いている側としてはわかりづらい。動画を見ている方も同じ思いだと思う。
・議案質疑における一問一答方式の採用については、手段であって目的ではなく、現状として何が課題なのかを掘り下げた上で検討していきたい。

○議場等への通信機器等の持ち込み及び傍聴人の受付について

意見の要旨

・通信機器の持ち込みについては、何が問題なのか整理する必要がある。
議員の持ち込み及び傍聴人の持ち込みと使用について、3点目に傍聴人の受付について起こりうる問題点を整理し、調査・再度検討する。

協議事項：

(1) 野洲市議会基本条例の検証について

議会改革推進特別委員会のスケジュール案

・今後の取り組みについて課題の共有化
議会活動の検証、議会活動の充実の必要性の観点から

・スケジュール

第1回定例会終了後、第2回議会改革推進特別委員会を開催。

4月、第3回、第4回議会改革推進特別委員会を開催。

5月中旬に議会基本条例の検証結果を議長へ報告。

5月下旬に全員協議会で報告。

広報・広聴機能の充実

・出前懇談会は市民発で受け身の状態。議会発で何ができるかを検証というか、していかないといけない。コロナ禍の状況であるのでZoom等の活用あるいは人数を絞っての市民参加を促すなど、意見を吸い上げる方法を考えなければならぬと思う。

・行政懇談会は議員が入ると意見が言いにくいということから議員出席が除かれた。出前懇談会は無所属議員の活動の場になっていたが、建設的なものにはならなかった。議員全体での活動は非常に難しい部分が出てくるのではないか。政党・個人・全体の議員の活動があるなかで決して議員活動が十分ではないとは言えない。

・コロナ禍の状況でオンラインという手段もあるが、明確な手法が見当たらない。インパクトの強い、訴えかけるようなものがないと懇談会の継続はなかなか難しい。

・学区や地域の声を聴くための場も必要と思うがなかなか人が集まらない。工夫が必要だ。

・何か魅力のあるテーマでやってみるのも一案。時間帯の配慮も必要。

・議会だよりの現状からの早期発行は難しい。

・市民の方々から聞いた意見を議会で発表する機会がない。意見を共有できる枠組みができれば面白いのではないか。議会だよりのページ増、カラー化による発信力の向上。

・出前懇談会、議会懇談会、行政懇談会のそれぞれの役割・目的を踏まえた検討を。

意見の要旨

・委員からの意見を踏まえて、議会の広報・広聴機能の充実について、次回の委員会で議論を深めていくこととしたい。

(2) 市議会におけるタブレット活用について

議長からの依頼

◎検討項目

1. 議会活動におけるタブレット導入の効果について
2. タブレットの効果的な活用方法について
3. タブレットの運用について
4. その他必要な事項

◎報告期限

令和3年5月中旬

通信費

・すべて市が持つのか政務活動費と折半するのか等、通信費だけに限らず使い方について議論を。

近隣市の状況

- ・守山市はWi-Fi整備済み。クラウド契約済み。タブレット未導入。
- ・草津市はタブレット導入済み。通信費は全額公費負担。
- ・栗東市は検討中。
- ・湖南市はタブレット導入済み。通信費は全額公費負担。
- ・大津市はタブレット導入済み。通信費は公費と政務活動費で折半。

設備について

- ・Wi-Fiを先に導入し環境を先に構築するするか、タブレットを先に導入するのどっちを取るか。
- ・Wi-Fi環境を先に整備して端末（タブレット、PC）は自由にするか、クラウドをベースに閉鎖された空間でタブレットだけを使用するのか先に決めないと前に進まないのでは。

その他の意見

- ・予算が先行しているため、当局と十分議論をした上で円滑に進むように。
- ・財政的に大変厳しいと聞いているので、議員が理解をいただける形で。みんなが本当に使いこなせるようなスタートを切らないといけない。
- ・効果は絶大であると思う。市民参加による議会運営ということでスピーディーに市民の声が聞けると思う。議会活動もスムーズに進む。ぜひとも速やかに進めてもらいたい。

(3) その他

○市民からの要望事項について

文書で返信したとしても理解が得られないと考えられるため、次回の委員会から当該市民の方に本委員会を傍聴いただくべく開催日時をお知らせすることで対応したい。文書の回答は控える。

- ・議長宛の文書に「引き続き検討いただけるものと認識」と書いている。また検討をされるものと期待をもたすのではないか。
- ・筋だけきっちりと議長と併せてされていたらいいと思う。
- ・改革意見を委員で検討したらどうか。その中で、取りまとめた意見を本人に渡したらどうか。

意見の結果、当該市民の方にどう伝えるかは委員長に一任。

(4) その他意見

・タブレット関係で、取手市がデモテック（デモクラシーとテクノロジーの融合）というICTの活用を使って、大学・民間企業・専門機関とともに新しい民主主義の形を探究されている。議会懇談会では、西脇市が年間60回されている。コロナ禍の状況でも年間20回ほど。議会側が出前に行くという形で、アイデアや課題をその後の委員会で検討し、執行部へ提案したり、議決の根拠にしていたりしっかり運用されている。最後に大津市では政策検討会議を設置し、テーマを取り上げて政策提案を行ったりや条例まで検討されている。

- ・次回の議会改革推進特別委員会は3月26日金曜日午前9時30分から